

[様式14]

(対象事業：1. 子どもを対象とした事業及びその開発にかかる事業、
2. ミュージアムを核とした地域文化資源の整備・活用に係わる事業)

事業名：特別展「大倉集古館所蔵 能面・能装束」

関連企画（ワークショップ・講演会等）

事業者名：町田市立博物館

連携事業館名：まちだ中央公民館、ひなた村

町田市民フォーラム ほか

住所：東京都町田市本町田3562

TEL：042-726-1531

FAX：042-723-3406

HPアドレス：<http://www.city.machida.tokyo.jp>



①施設概要

1973年に町田市郷土資料館として開館。1976年に町田市立博物館と改称し、現在に至る。
民俗資料、ガラス器、陶磁器、風俗画、大津絵等を所蔵する。
年間6~7回の企画展を開催。

②事業の意図目的

特別展「大倉集古館所蔵 能面・能装束」では、博物館展示室に能面24件、能装束54件を展示した。この展覧会を機会として、普段接することの少ない能楽に親しむ場を様々な角度から提供することで、能楽を総合的に理解し、楽しんでもらうことを目的とする。

小中学生向けの企画では、装束の着装を実見したり、面・楽器に触れたり謡を体験することで、能の魅力を子供達に体で感じてもらい、日本が誇る伝統芸能・能に興味を持ってもらいたい。

市民向けの企画では、町田市に縁の深い謡曲「横山」を知り、舞台となった現地を歩くことで、町田市の歴史と文化を見つめ直す機会をつくる。また、現在中断している地元の郷土史家達による「横山」研究を再び活発化させたい。

③事業概要

小中学生向けのワークショップ「能を楽しもう」

- (1) 「装束をつけてみよう」 (2007年11月10日)
- (2) 「謡を謳ってみよう」 (2007年11月11日)
- (3) 「能面をつけてみよう」 (2007年11月23日)
- (4) 「能の音楽を体験してみよう」 (2007年12月9日)

市民向けの企画「町田と能楽」

- (1) 講演会「能と風土ー町田を舞台とした謡曲「横山」ー」 (2007年11月17日)
- (2) オリエンテーリング「謡曲「横山」の舞台ー小野路を散策しようー」 (2007年11月24日)

④事業の製作物及び報告書等

事業の製作物 テキスト (各企画ごと) その他 (リーフレットB5版8頁 35,000部)
作成した報告書等 冊子 (A4版48頁 350部)

⑤参加者状況

参加者人数 延べ 311人

内 訳 ワークショップ (1) 70人、ワークショップ (2) 18人、ワークショップ (3) 15人
ワークショップ (4) 70人、講演会105人、オリエンテーリング33人

(1) 事業の実施状況について

小中学生向けのワークショップ「能を楽しもう」

(1) 装束をつけてみよう (11月10日(土) 10:00-12:00、町田市民フォーラムホールにて)

観世流シテ方・桑田貴志氏ほかのご指導・ご協力の下、装束ほかの実物を見ながら解説を伺った。

また、参加者の中からモデルを4名選び、お姫様役、大臣役、武将役の能装束を着装した。(挿図1)

(2) 「謡を謳ってみよう」 (11月11日(日) 10:00-11:30、14:00-15:30、町田市民フォーラム和室にて)

町田市謡曲会会長・丸田圭二氏を講師に迎えて謡「橋弁慶」を習い、その意味や独特の言い回しを学び、発声・節回しの面白さを体験した。(挿図2)

(3) 「能面をつけてみよう」 (11月23日(金・祝) 10:00-11:30、14:00-15:30、町田市民フォーラム和室にて)

町田市立博物館館長・田邊三郎助氏を講師に迎え、室町時代の「尉」と桃山時代の「牙べし見」、現代の「小面」を、参加者自らの顔にあて、能面をつけたときの感覚を体験した。(挿図3)

(4) 「能の音楽を体験してみよう」 (12月9日(日) 14:00-16:00、ひなた村カリヨンホールにて)

櫻井貴氏ほかのご指導・ご協力の下、囃子・地謡の音楽としての魅力を体験し、その後、能に用いられる楽器に自ら触れて音を奏でた。(挿図4)



挿図1



挿図2



挿図3



挿図4

市民向けの企画「町田と能楽」（共催：まちだ中央公民館）

（１）講演会「能と風土ー町田を舞台とした謡曲「横山」ー」（11月17日（土）18:30-20:30、まちだ中央公民館ホールにて）

観阿弥の作とも、「鉢木」のモデル曲とも考えられ、能楽初期の作品として重要な位置を占める謡曲「横山」。ここに登場する主人公の住まいが、町田市の小野路と言われている。

本講演会では、長年「横山」の研究をしてこられた、野上記念法政大学能楽研究所所長・西野春雄氏を講師に迎え、同じく「横山」を地元の郷土研究家として見つめ続けてきた町田市民文学館名誉館長・寺田和雄氏ほかとともに、その最新の知見を発表していただいた。同時に、観世流シテ方・桑田貴志氏による謡で、「横山」の一節を堪能した。（挿図5、6）



挿図 5



挿図 6

（２）オリエンテーリング「謡曲「横山」の舞台ー小野路を散策しようー」（11月24日（土）9:20-17:00、まちだ中央公民館集合）

上記の講演会と関連させ、「横山」の舞台となった小野路を散策した。講師による解説を聞きながら、謡曲の舞台にもなった歴史的な地域の名所・旧跡を辿り、その歴史と文化を改めて見つめ直した。（挿図7、8）



挿図 7



挿図 8

(2) 地域との連携について

小中学生向けのワークショップ

【ワークショップおよびそのリーフレットの監修は町田市立小中学校の校長先生】

今回、小中学生向けのワークショップを企画するにあたり、町田市立藤の台小学校長、同山崎中学校長（いずれも町田市立博物館運営委員）、同本町田東小学校長（ひなた村運営委員）に監修をお願いした。地元の先生方のネットワークや教育のノウハウを活用できたことで、博物館職員・学芸員のみでは把握しきれない情報を得、子どもたちに適した内容の企画を構成できた。

また、事前のリーフレット配布に際しても、町田市教育委員会のネットワークを活用し、各学校で児童・生徒全員にリーフレットが行き渡ったことで、参加者を広く募集することが可能となった。

【地元の人材を活用した講師選定】

ワークショップのうち、(1)「装束をつけてみよう」の講師は、町田市で能楽教室を開催する能楽師、(2)「謡を謳ってみよう」の講師は、町田市謡曲会会長、(3)「能面をつけてみよう」の講師は、当館館長、(4)「能の音楽を体験してみよう」の講師には、市立小学校の先生の友人ら、と、いうように、極力町田市と縁のある方をお願いをした。このような人材選定をすることで、ワークショップに参加した子どもたちが、その後も興味を持ち続け、学習の機会が保たれることを願ったのである。

【町田市の施設を活用した会場設定】

ワークショップの会場は、(1)が町田市民フォーラムホール、(2)(3)が町田市民フォーラム和室、(4)が青少年施設ひなた村カリヨンホールと、博物館の外に出たものである。

残念ながら、博物館の交通アクセスがあまり良いとはいえず、とりわけ子どもたちにはどこにあるかも認知されていない状況であることを鑑みて、他の施設を借りて開催した。

他の施設と連携して、交通の便が良い会場を設定するという試みは、参加者に好評であり、また、博物館の活動を広く認知してもらい、展覧会に興味を持ってもらうきっかけともなった。

市民向けの企画「町田と能楽」

【テーマは地元を舞台とした謡曲】

企画のテーマが「町田と能楽」とあるとおり、そもそもが地元と密着した内容である。そのため、あらゆる面で地元の方々と連携して企画が準備・開催された。

講演会「能と風土ー町田を舞台とした謡曲「横山」ー」では、以前より活動していた「横山」の研究会メンバーを中心に準備を始め、そのご縁で野上記念法政大学能楽研究所長・西野春雄氏をメイン講師にお迎えすることが出来た。また、講演だけでなく謡も楽しんでもらいたく、町田市で能楽教室を開催している桑田貴志氏に重習いの曲「横山」の謡を実演していただくこともできた。

オリエンテーリング「謡曲「横山」の舞台ー小野路を散策しようー」では、小野路の旧家・小島氏のご協力を仰ぎ、その他小野路一帯の名所旧跡を、各所の皆様のご協力を得て散策することができた。

いずれの企画も、町田市の文化財保護審議会委員・井上恭一氏をはじめとする人的ネットワークによって成しえたものであり、まさに地域との連携に支えられて開催されたといえるだろう。

(3) 成果物について

①各企画ごとのテキスト（原稿は各企画の講師に依頼）→企画参加者への配布資料として

ワークショップ（1） A4版 10頁 モノクロ印刷

ワークショップ（2） A4版 3頁 モノクロ印刷

ワークショップ（3） A4版 6頁 モノクロ印刷

ワークショップ（4） A4版 14頁 モノクロ印刷

講演会 A4版 21頁 モノクロ印刷

オリエンテーリング A4版 11頁 モノクロ印刷

②リーフレット→町田市の小中学生全員への事前配布資料として

B5版 8頁（観音開きタイプ） 4色印刷 35,000部作成

③実施後に作成した報告書→町田市の小中学校への事後配布資料として

A4版 48頁（冊子タイプ） 4色印刷 350部作成

(4) 参加者の反応

（詳細は『報告書』の「参加してくださった皆さんの感想」「アンケートの集計結果」を参照）

ワークショップに参加した多くの子どもたちにとっては、能楽は普段接する機会が少なく、また、どのように接していいのかわからないものだった。しかし、そのような子どもたちにも、気軽に参加できる今回の企画は、能楽に接するととてもよいきっかけとなったようである。

大人が「子どもには少し難しいかしら」と心配する内容でも、子どもたちはしり込みすることなく、楽しみながら参加してくれていた。

講演会とオリエンテーリングに参加した皆さんからは、地元・町田と絡めた企画内容が好評だった。町田市の歴史・文化に改めて興味を持った、という感想が大変多かった。また、この企画に参加したことをきっかけに、能楽の鑑賞に前向きになった、という声も多数寄せられた。

ワークショップ・講演会等ともに、博物館の展覧会場だけでは理解し得ない、能楽の生き生きとした魅力を感じ取っていただけた、能楽に対する興味・関心をより深めていただけた。

また、どちらの企画も参加者からは継続を望む声が多かった。博物館での展覧会活動の一部として、展覧会をより楽しんでもいただくために企画した内容ではあるが、今後、展覧会とは独立して勉強会・研究会として発展していく可能性を秘めたものになったと思う。どのように発展・展開させていくかは今後の課題である。

(5) 芸術拠点形成事業を実施したことによる効果

能面と能装束を題材とした展覧会を開催するにあたり、「能楽」という、一般にはなじみの薄い古典芸能に、いかに親しみ、楽しんでもらうか、ということを考えて実施した事業だった。

この点からは、小中学生には、参加型のワークショップで、まずは能楽の入り口で楽しんでもらえたこと、そして、広く市民には、地元の歴史と文化を絡めてこれらを見つめなおしてもらったことの

意義は大きかったと思う。

そして、これらの企画に参加した方々の多くが、「おもしろかった」のみで終わらず「またこのような企画を開催して欲しい」という要望や「実際に能を見たくなった」という感想を持ったことは、まさに事業実施の効果である。通常の展覧会の展示室でケースの中に並んだ作品を見るだけでは、ここまで魅力が伝わることは考えにくいように思う。

また、これまで博物館に足を運んだことがなかった人にも、博物館の活動が広く認知されたことも、今回の事業の効果である。これにより、地域との連携がさらにとりやすくなり、今まで以上に地元のネットワークや学校教育のシステムを活用した企画が開催でき、地域に根ざした博物館の活動が広がることが期待される。

（６）新聞記事等

○関連誌等（刊行順）

『観世』第74巻第10号、62頁「窓」、檜書店、2007年10月1日刊

『生涯学習 NAVI』10月11月号、特集「能を学ぼう」、町田市教育委員会生涯学習部社会教育課、2007年10月刊

『能楽タイムズ』第668号、1面、能楽書林、2007年11月1日刊

『アサヒタウンズ』1752号、15面「町田トピックス」、アサヒタウンズ、2007年11月8日刊

『婦人画報』12月号、「アートのある空間へ」、(株)アシェット婦人画報社、2007年12月1日刊

『家庭画報』12月号、「今月のいろいろ」、世界文化社、2007年12月1日刊

『観世』第75巻第2号、59頁「窓」、檜書店、2008年2月1日刊